

(2)本四高速等の整備効果

本四高速等の整備効果について

本四間交流の推移

- 自動車交通量の推移
- 人の交流の推移
- 本四高速の収入及び交通量の推移

交流圏の拡大

- 高速道路ネットワークの拡充
- 中国、四国内の高速道路ネットワーク整備の進展
- 3時間圏域の拡大
- 中国、四国内の移動時間の変化

日常交流の促進

- 本州・四国間で多数の高速バスが運行
- 岡山県と香川県間の通勤・通学が定着

地域の産業への影響

- 徳島県のLED産業集積に貢献
- 高知県産「みょうが」が大都市の市場を独占
- 坂出・坂出北IC、早島IC近辺に物流拠点が形成、就業者数が増加
- 高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開

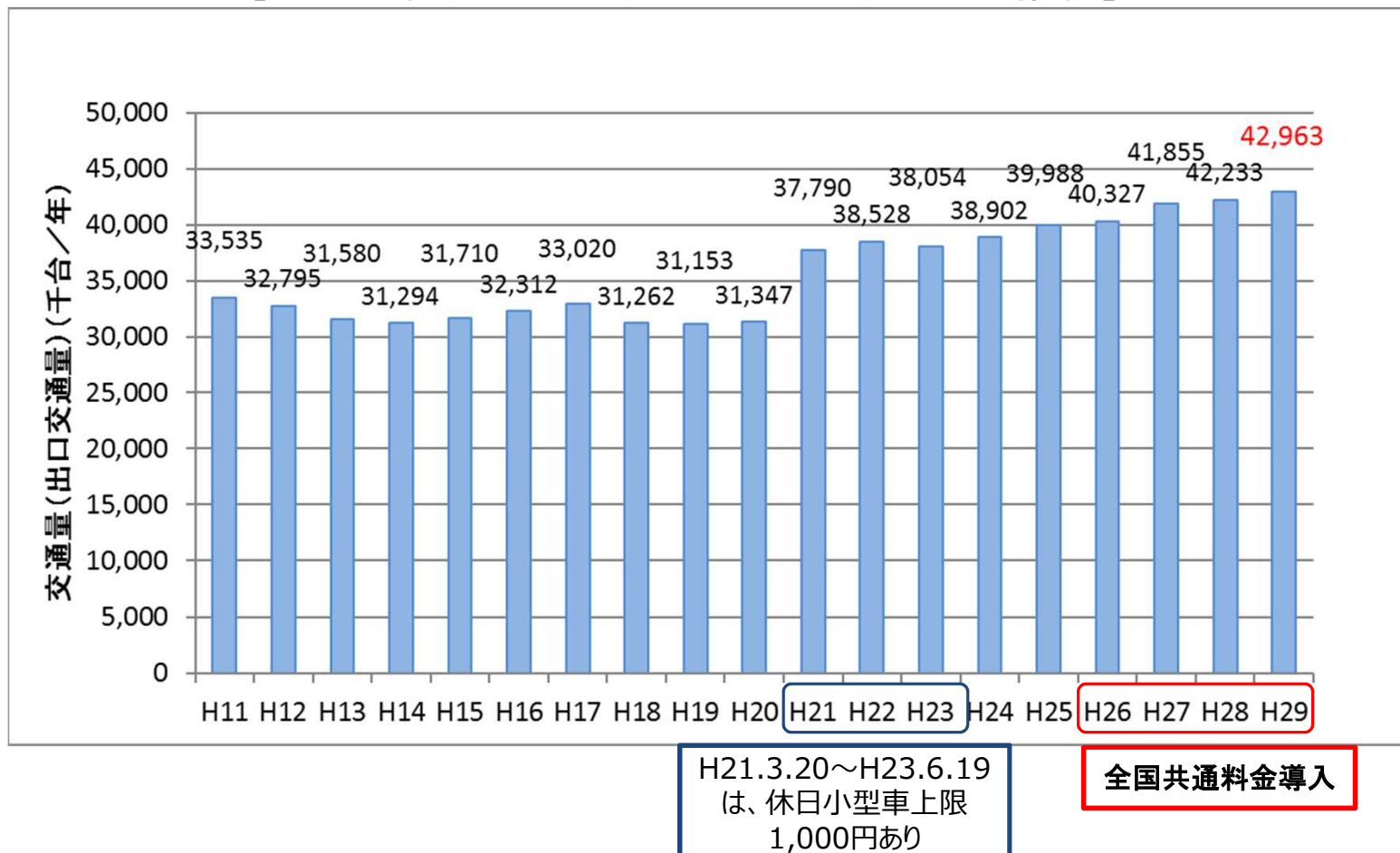
社会活動を支える

- しまなみ海道島しょ部における救急搬送
- リダンダンシー確保により社会経済活動を支援

本州四国連絡高速道路の自動車交通量の推移

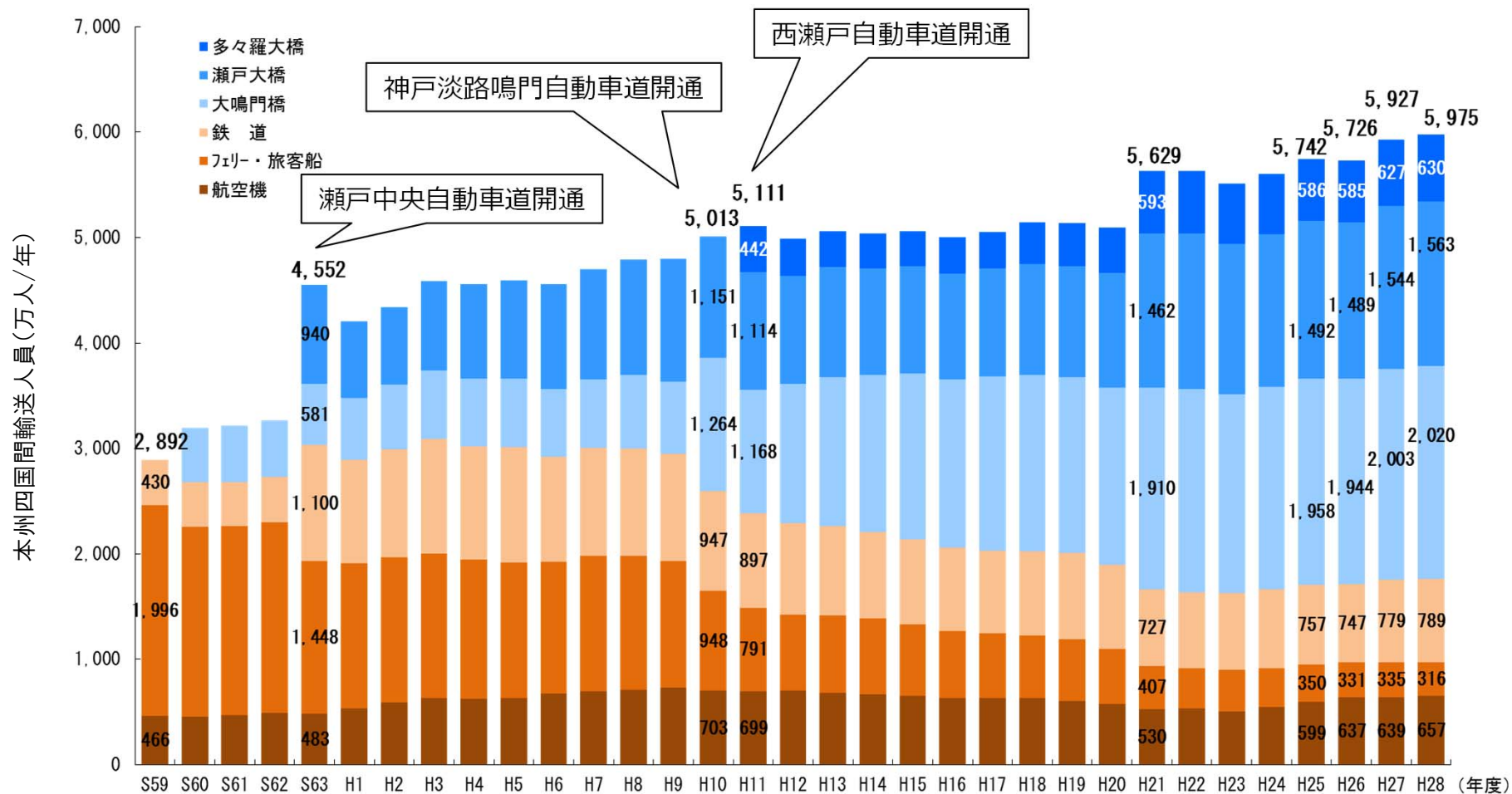
- 平成29年度の交通量（出口交通量）は、前年に対して1.7%の増加、約4,296万3千台（日平均約11.8万台）と、6年連続で過去最高を記録。

[3ルート開通後の交通量（出口交通量）の推移]



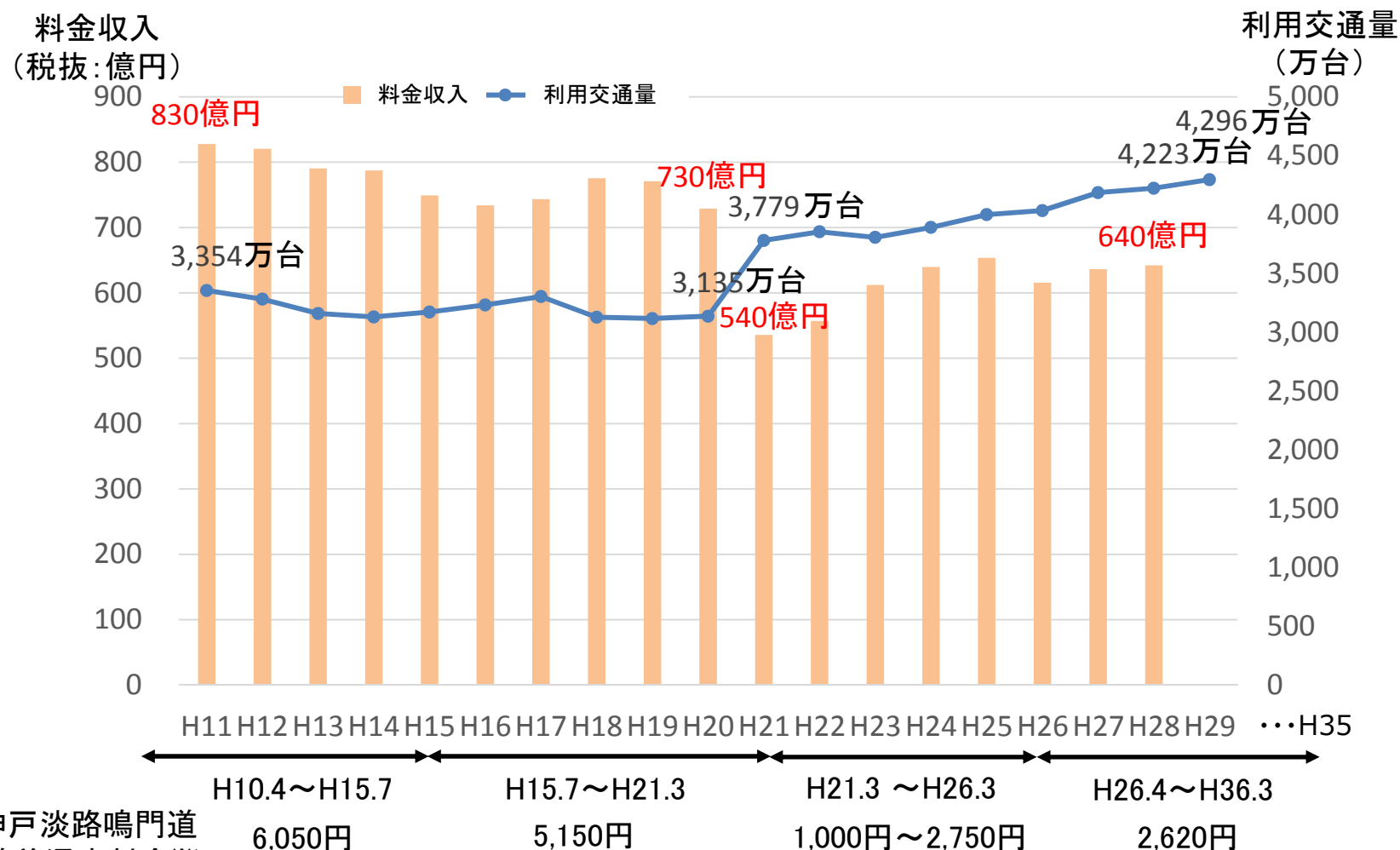
本州・四国間の交流（人の交流の推移）

- H28年度の交流人口は約6千万人／年であり、H27年度に対して約1.1%増加。
- 瀬戸大橋開通時のS63に対して交流人口は、1.3倍に増加。



本四高速の収入及び交通量の推移

- 交通量は利便増進計画による割引（休日上限1,000円等）によりH21より大幅に増加。H26.4以降の全国共通料金適用後も増加。
- 交通量は大幅に増加しているが、料金収入は平成11年度の830億円をピークに減少しており、平成28年度は2割減の約640億円。



交流圏の拡大

高速道路ネットワークの拡充

- 大鳴門橋開通前の昭和60年3月時点では、瀬戸内地域周辺的高速道路は中国道を除き、部分的に完成している状況
- その後、本四高速道路を含め、本州側、四国側ともに、順次高速道路の整備が進められ、瀬戸内地域周辺では高速道路による広域交通ネットワークが形成

昭和60年

【供用延長】

全国： 約3,600km

四国： 約10km

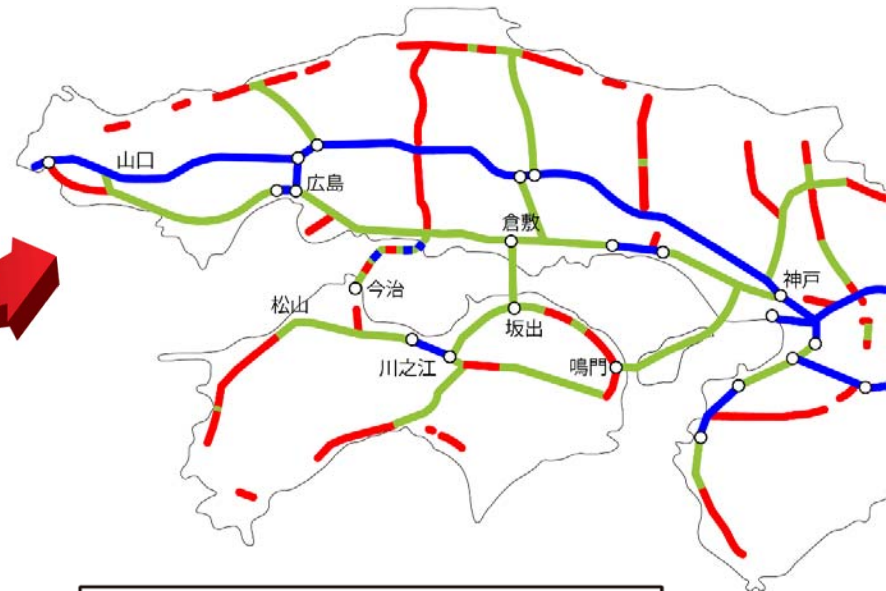


平成29年

【供用延長】

全国： 約11,500km

四国： 約600km



■ ~昭和60年3月末の開通区間
■ 昭和60年4月~平成11年5月末の開通区間
■ 平成11年6月~平成29年12月末の開通区間

注：対象は高規格幹線道路

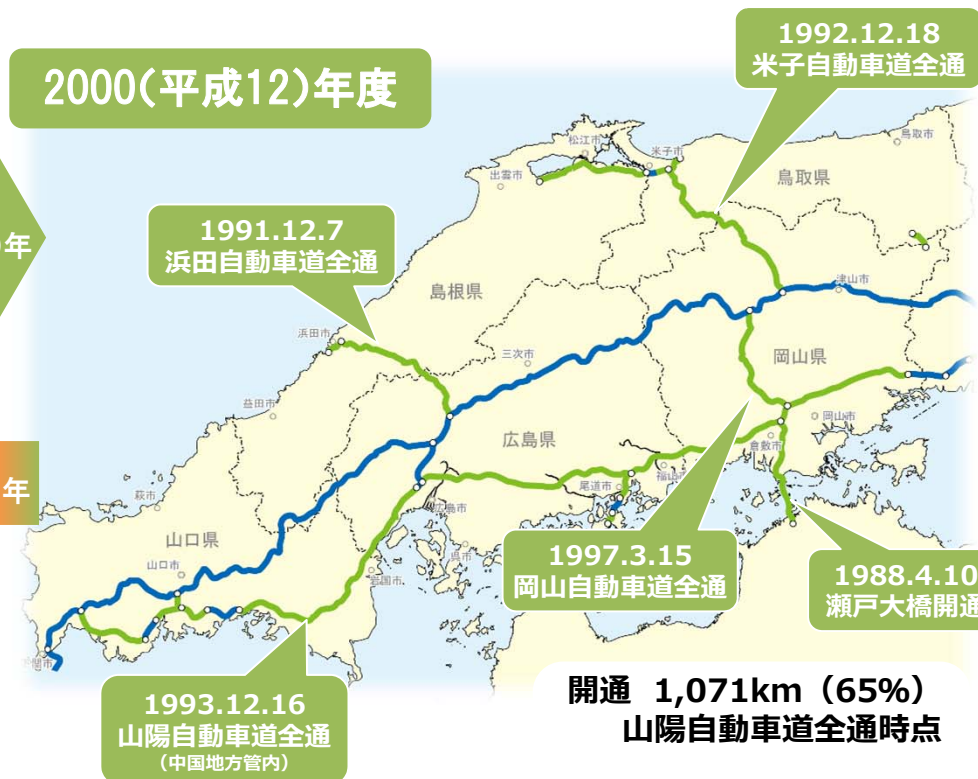
出典：「高規格幹線道路網図」(全国高速道路建設協議会) ほかをもとに作成

【中国】高速道路ネットワーク整備の進展(1985年～2015年)

1985(昭和60)年度



2000(平成12)年度



2015(平成27)年度



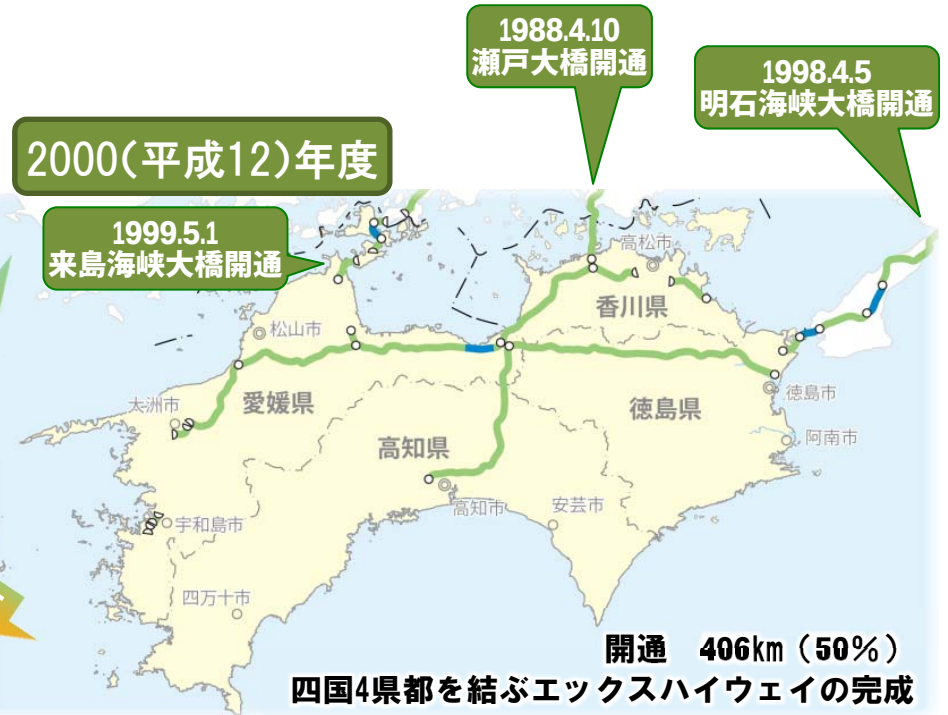
— 1985年に開通
— 1986年～2000年に開通
— 2001年～2015年に開通

【四国】高速道路ネットワーク整備の進展(1985年～2015年)

1985(昭和60)年度



2000(平成12)年度



2015(平成27)年度



3時間圏域の拡大

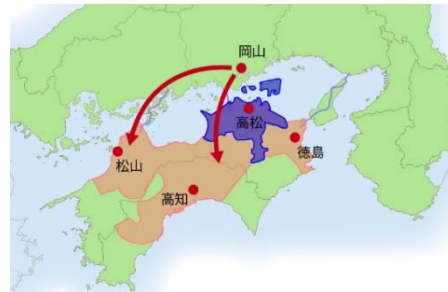
- 高速道路ネットワークの整備により、瀬戸内地域などの主要都市からの3時間圏域は大きく拡大
- 例えば、昭和60年当時では徳島市から3時間で到達できるのは淡路島まででしたが、現在では神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルートを利用することにより、大阪府・兵庫県・岡山県の大部分に到達可能

■各県庁所在都市からの3時間圏域の変化

【大阪市・神戸市 発】



【岡山市 発】



【広島市 発】



各県庁所在都市から3時間以内に
到達できる本州側・四国側の範囲



昭和60年 3月
(大鳴門橋開通前)



平成29年 3月

【徳島市 発】



【高松市 発】



【松山市 発】



【高知市 発】



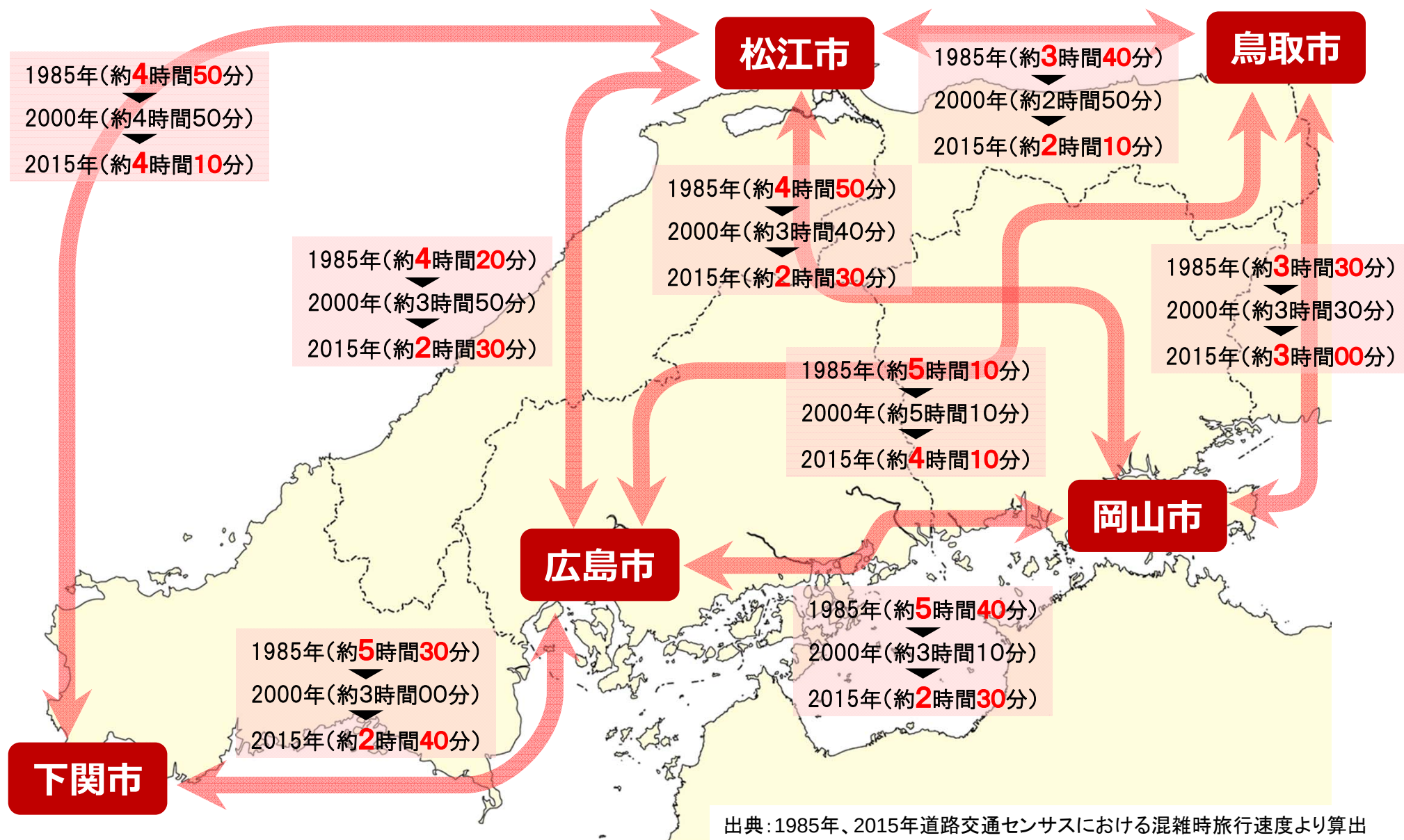
注：自動車での3時間圏域

出典：「道路時刻表」(道路整備促進期成同盟会全国協議会)、「全国フェリー・旅客船ガイド」(日刊海事通信社) ほかをもとに作成

【中国】移動時間の変化

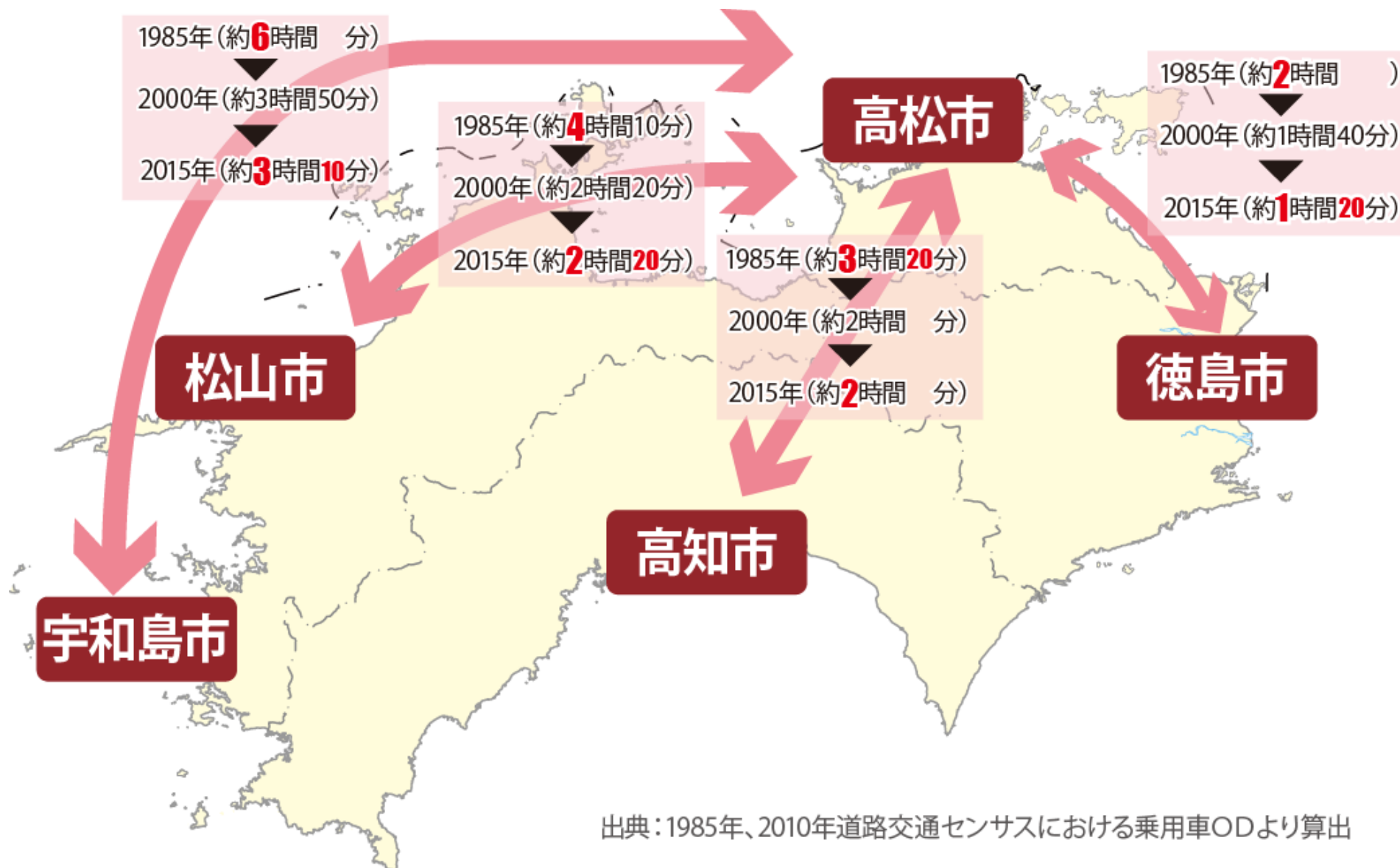
○自動車による中国地方内での移動時間が約1～6割短縮

11



【四国】移動時間の変化

○自動車による四国内での移動時間が約3～5割短縮

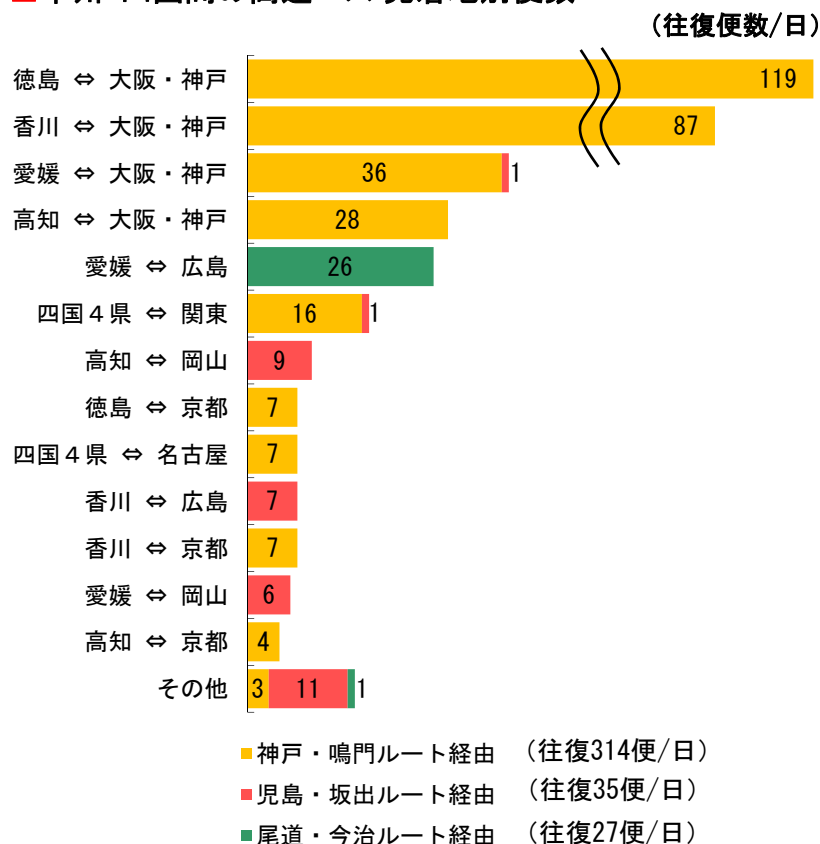


日常交流の促進

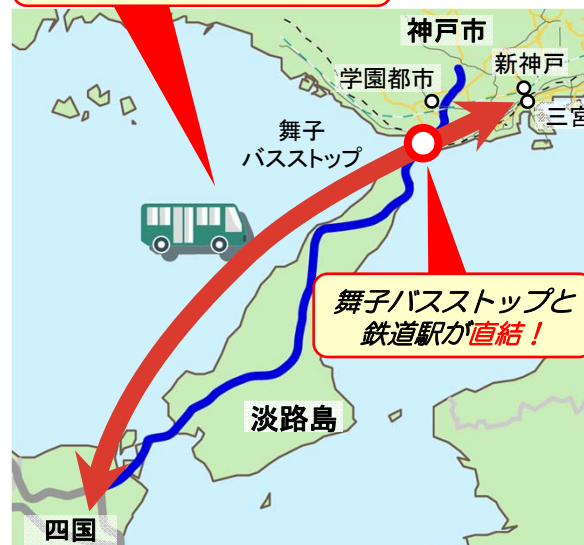
本州・四国間で多数の高速バスが運行

- 本州と四国間を運行する高速バスは、四国4県と大阪・神戸とを結ぶ路線を中心に、**往復376便/日が運行**
- 神戸・鳴門ルートを経由する便は、往復314便/日で、全体の約84%を占めている。
- また、本州側には鉄道駅と直結した舞子バスストップがあり、淡路島・神戸便などを含め、多数の高速バスが発着

■本州・四国間の高速バス 発着地別便数



本州と淡路島・四国の間で多数の高速バスが運行！



舞子バスストップと鉄道駅が直結！



通勤・通学時間帯の舞子バスストップ

◆舞子バスストップ

ピーク時には、1時間当たり25便以上の高速バスが淡路島・四国から到着します。
JR舞子・山陽舞子公園の鉄道駅と直結している利便性が特徴です。

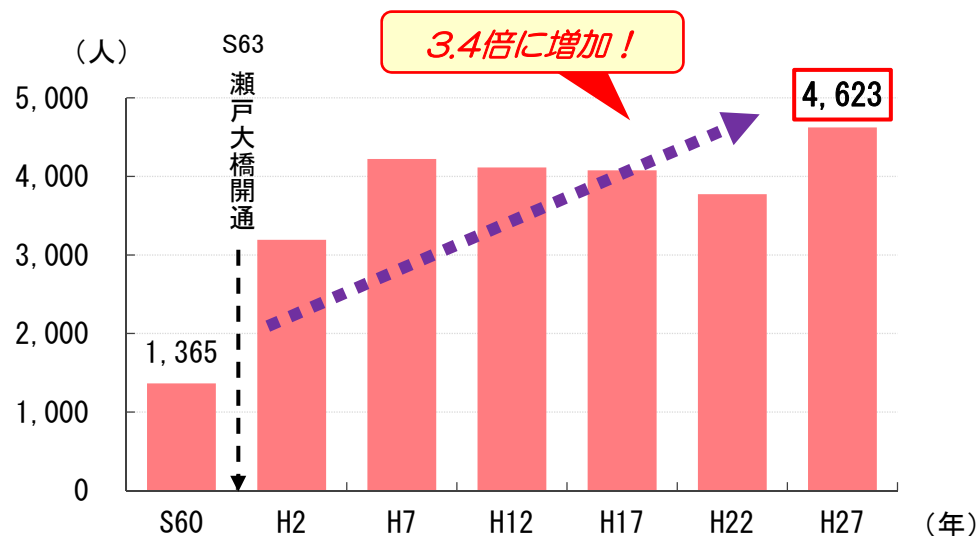
注1: 平成28年10月時点
 注2: 「その他」…8路線・往復15便/日
 出典: 「四国運輸局業務要覧」(四国運輸局)、運行会社へのヒアリングより作成

出典: 運行会社各社時刻表をもとに作成

岡山県と香川県間の通勤・通学が定着

- 瀬戸内海を隔てる岡山県と香川県の間では、瀬戸大橋を利用した通勤・通学が拡大し、**就業者・通学者数は瀬戸大橋開通前の約3.4倍に増加**
- 岡山大学では四国地方出身者、香川大学では近畿・中国地方出身者の割合がそれぞれ増加

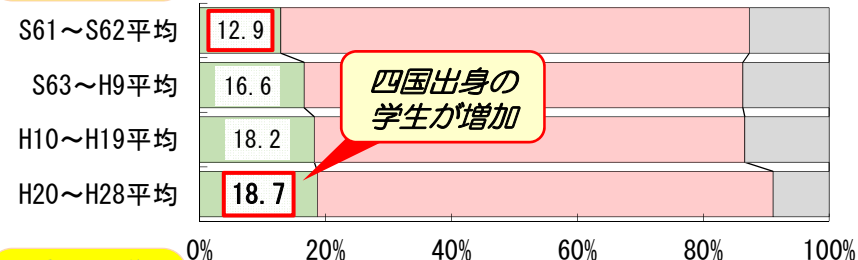
■岡山県と香川県間の就業者・通学者数の推移



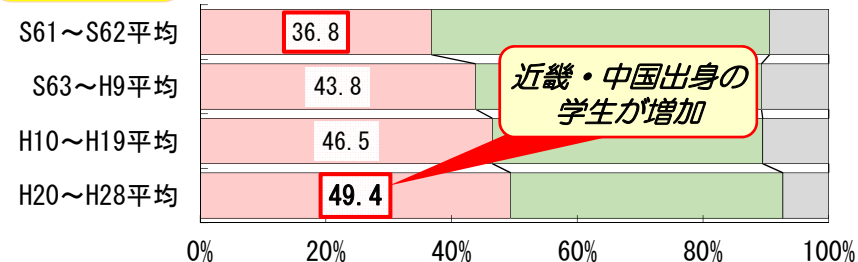
出典:「国勢調査」(総務省統計局)より作成
注:「15歳以上就業者数」「15歳以上通学者数」の合計値

■岡山大学・香川大学 入学者出身地の変化

岡山大学



香川大学



出典: 各大学資料をもとに作成

岡山県・香川県間を通学する大学生の声

(高松市在住 岡山大・文学部4年 女性)

- 高松市内の自宅から岡山大学に通っています。瀬戸大橋線は始発が早く、終電は遅いので不便は感じません。卒業後は地元で働きたいと思い、香川県内の企業へ就職が決まっています。



(高松市在住 岡山大・教育学部3年 男性)

- 軟式野球部での部活動に力を入れており、朝7時からの練習には瀬戸大橋線の始発に乗って、ほぼ皆勤です。その甲斐あって平成29年春のリーグ戦で優勝して全国大会に出場し、ベスト4に進出できました。

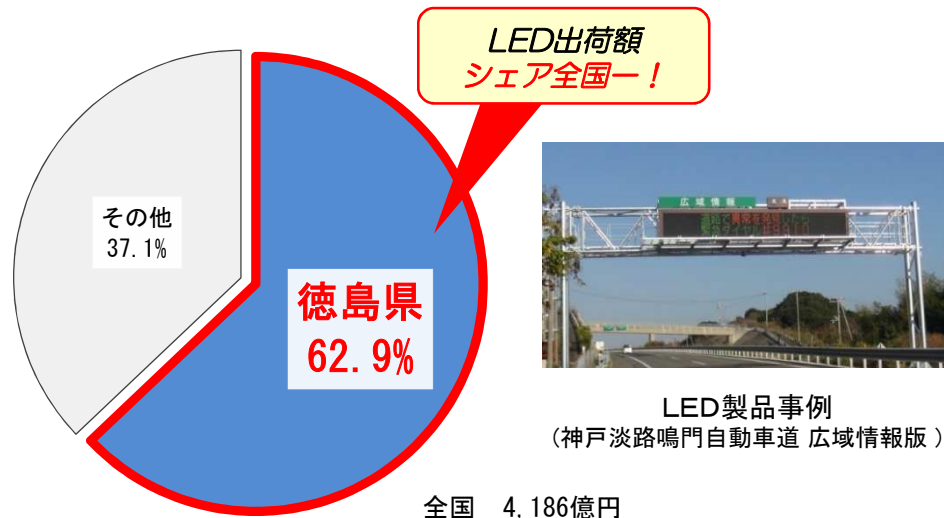


地域の産業への影響

徳島県のLED産業集積に貢献

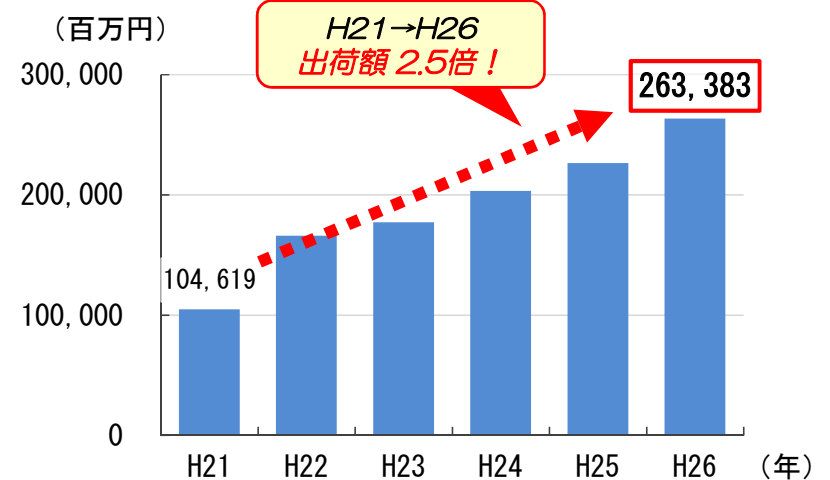
- 徳島県は、高輝度青色LEDを世界で初めて製品化した企業をはじめ、100社以上のLED関連企業が集積
- 「LEDバレイ構想」を推進する徳島県では、LEDに関する研究開発の拠点形成、高度技術者の育成に関する取組みを実施
- 徳島県のLED出荷額は年々増加、平成26年の全国シェアでは62.9%（約2,634億円）を占め、日本一

■ LED出荷額 全国シェア（平成26年）



出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

■ 徳島県 LED出荷額の推移



出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

LED関連製品メーカー 営業担当者の声



事業活動では、少量多頻度の配送・調達を行っています。原材料や製品の調達・納品の多くで本四高速道路を利用しており、特に関西方面に向けては、リードタイムの短縮化と物流の安定に貢献しているといえます。

■ 配送・調達ルート例

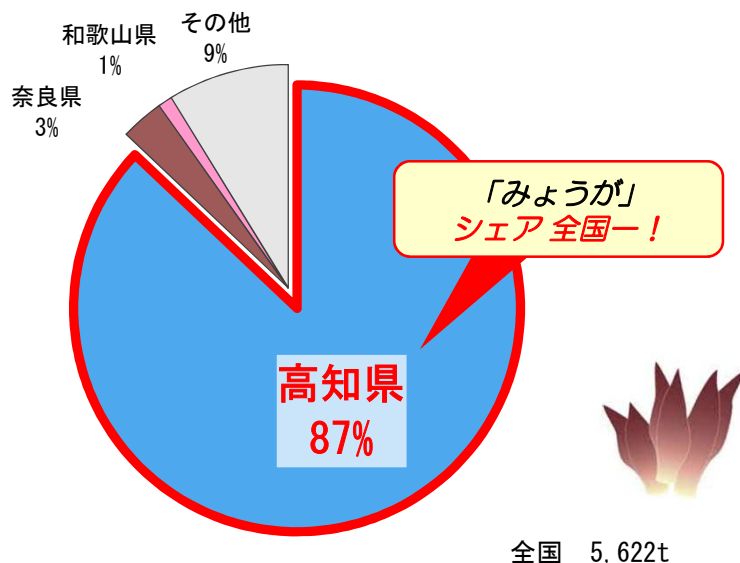
主に 神戸淡路鳴門自動車道を利用し、原材料を調達・製品を納品！



高知県産「みょうが」が大都市の市場を独占

- 「みょうが」は温暖で降水量の多い気候が栽培に適しており、ハウスと露地栽培で一年中出荷している高知県がシェア全国一
- 鮮度保持を追求してきた高知県では、青果物の新たな包装法を独自開発するなどの独自の工夫を実施
- 高速道路ネットワークの拡充により、新鮮な「みょうが」がトラック輸送で頻繁に出荷できるようになったこと等も背景に、東京・大阪市場でのシェアを独占するまでに成長

■「みょうが」の全国シェア(平成28年)



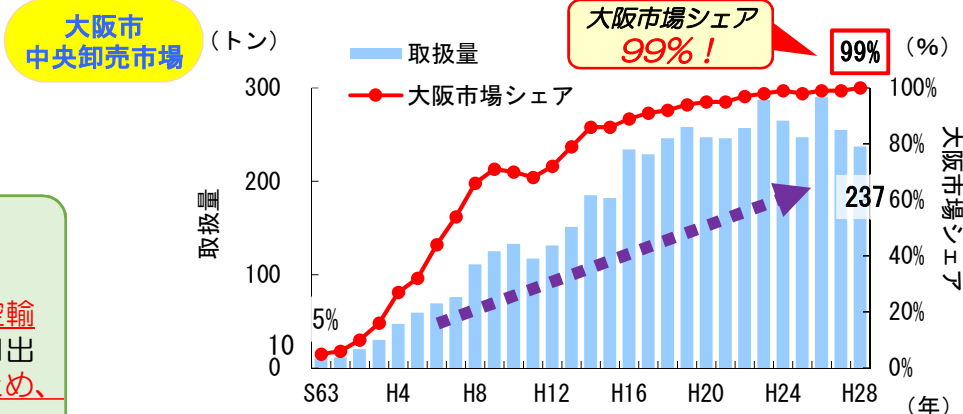
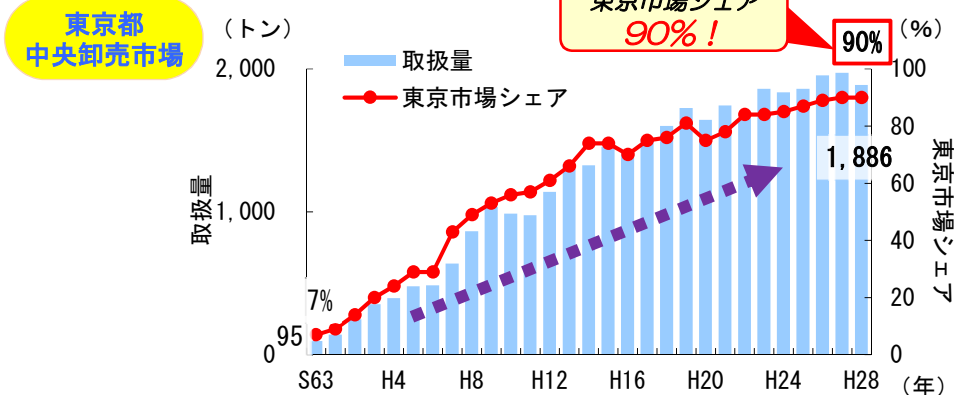
出典：「地域特産野菜生産状況調査」（農林水産省）より作成

みょうが生産者の声



「みょうが」は鮮度が重要であるため、以前は空輸でした。トラックで運べるようになってほぼ365日出荷でき、「橋」があることで短時間で出荷できるため、鮮度の面でも大いに役立っています。

■東京都・大阪市中心卸売市場における高知県産「みょうが」の取扱量とシェア



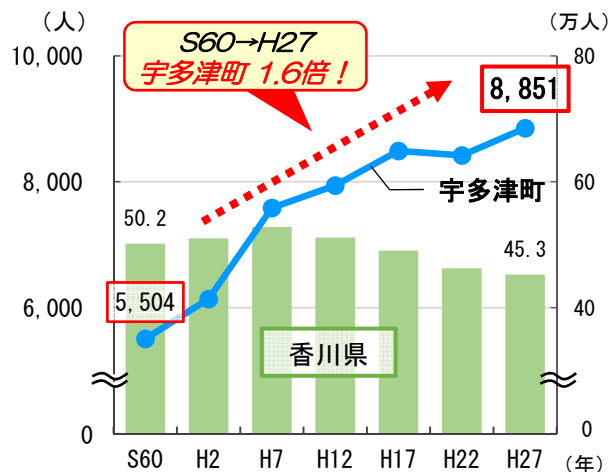
出典：「大阪市中央卸売市場年報」
「東京都中央卸売市場年報」より作成

坂出・坂出北IC、早島IC近辺に物流拠点が形成、就業者数が増加

- 瀬戸大橋の開通や、高速道路ネットワークの拡充により、香川県・岡山県は物流のクロスポイントに
- 坂出・坂出北IC近辺の香川県坂出市・宇多津町や、早島ICのある岡山県早島町では、各自治体による立地促進対策等により、運輸業等の物流関連施設の立地が相次いでおり、宇多津町・早島町では就業者数が増加

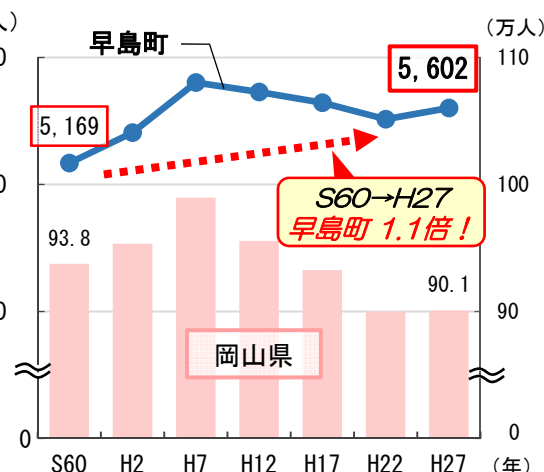
■就業者数の推移

◆香川県宇多津町



注: 15歳以上就業者数 出典: 「国勢調査」(総務省統計局) より作成

◆岡山県早島町



注: 15歳以上就業者数 出典: 「国勢調査」(総務省統計局) より作成

■瀬戸大橋近辺の物流関連施設立地状況



出典: RESAS (地域経済分析システム) ほかをもとに作成



香川県宇多津町 担当者の声

- 瀬戸大橋開通に伴う流通の高度化と区画整理事業や企業誘致がうまくリンクし、企業や人口が大幅に増加しました。また、大型店や映画館等ができたことも重なり、町が賑わいました。



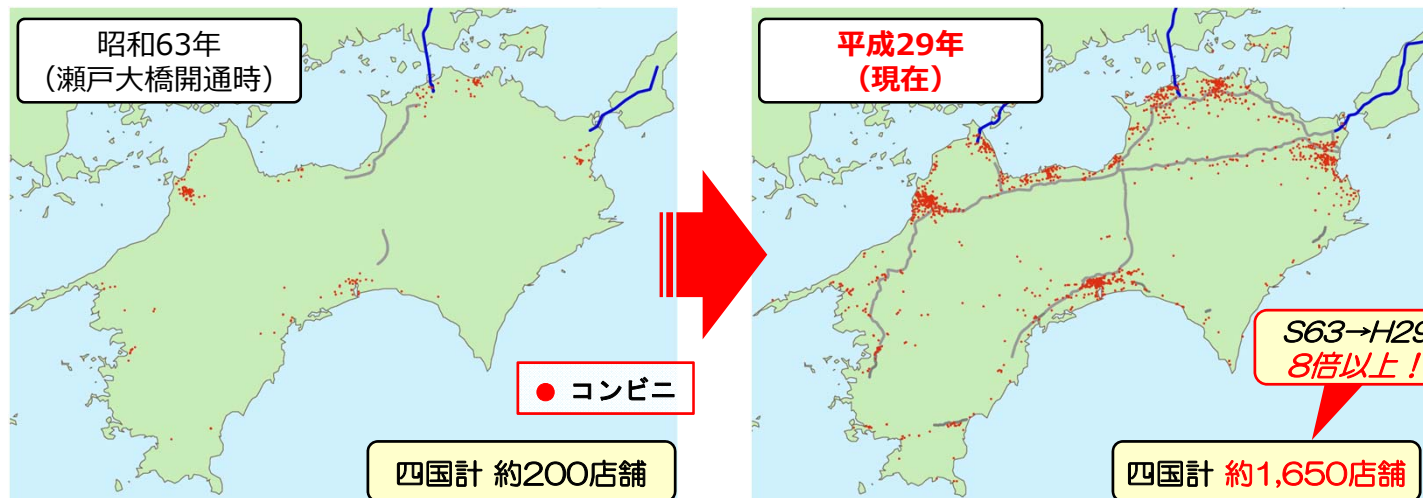
大手スーパーマーケット 担当役員の声

- 中国・四国地方の瀬戸内海沿岸部の都市周辺へ集中した店舗展開を行っています。そのクロスポイントとなる早島町に物流拠点を集約することで、物流トータルシステムの効率化がはかれています。

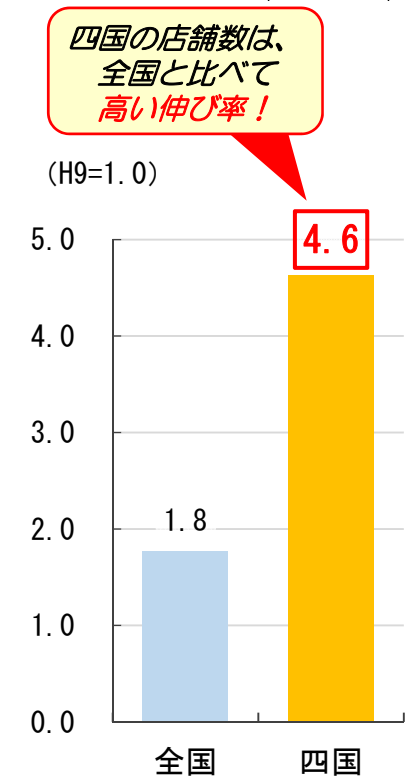
高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開

- 昭和63年当時、四国内の「コンビニ」は各県庁所在都市を中心に出店
- 本四高速道路をはじめとした高速道路ネットワークの拡充に伴い、流通形態が確立されたことから出店が加速
- 四国の「コンビニ」店舗数は、瀬戸大橋開通から約30年で、8倍以上に増加

■ 四国 コンビニ出店状況の変化



■ コンビニ店舗数 伸び率の比較 (H9→H28)

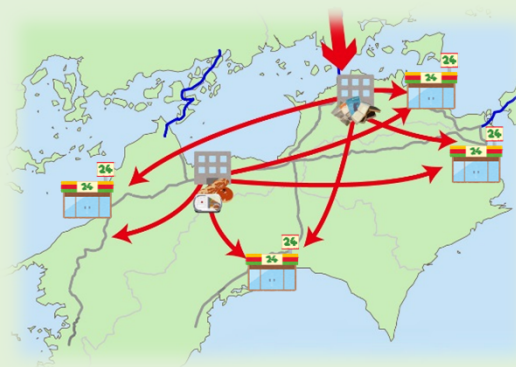


出典：各年次の電話帳をもとに作成
注：電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出



大手コンビニ 四国地区マネジャーの声

「橋」がなければ、本州側から商品を届けることができず出店が困難でした。お弁当や惣菜類等は四国内の工場で製造しています。雑貨やドリンク等の商品は、本州から瀬戸大橋経由で坂出市の物流拠点に一度集約し、四国全域に配送しています。物流拠点については、本州からアクセスが容易な坂出市に設けています。



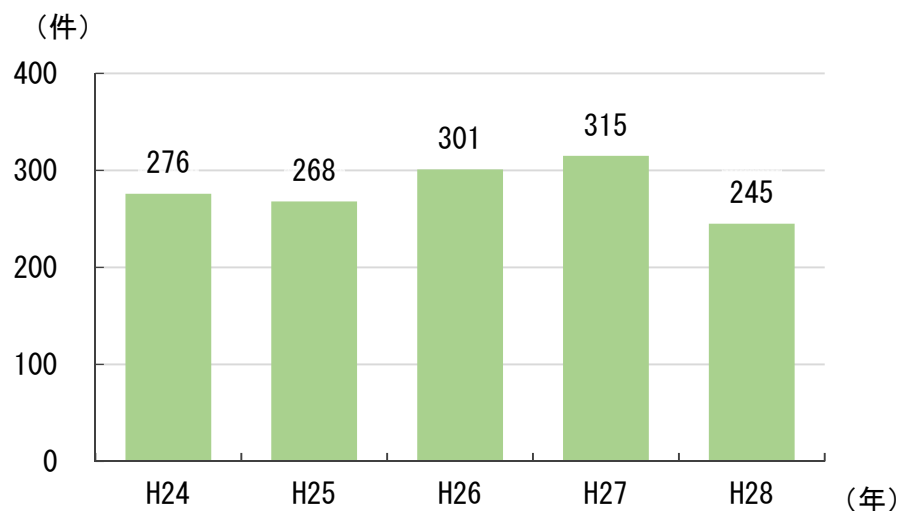
出典：「商業動態統計」(経済産業省)より作成

社会活動を支える

しまなみ海道島しょ部における救急搬送

- 広島県尾道市の生口島から、しまなみ海道を通行した救急搬送は年間250～300件程度発生
- 以前は市営フェリーや小型船を用意しての救急搬送でしたが、しまなみ海道の開通によって終日・即時の搬送が可能となり、住民の「安心」にも貢献

■ 生口島からしまなみ海道を通行した救急搬送件数

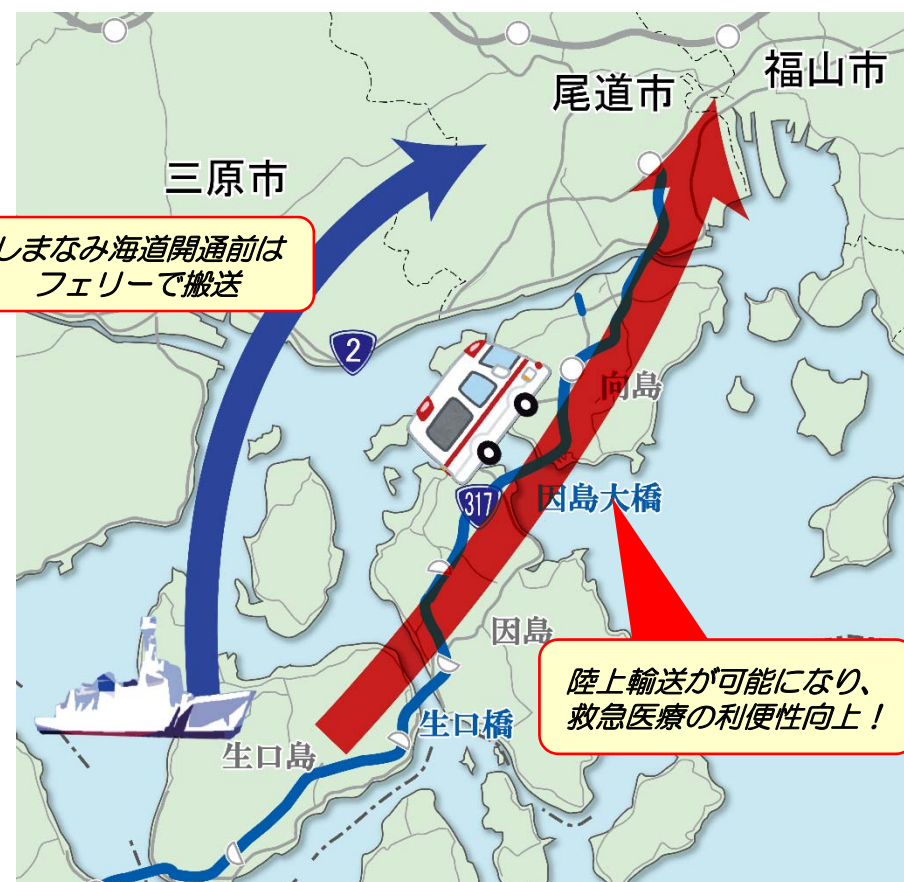


出典：尾道市消防局提供データより作成

消防関係者の声

生口島の瀬戸田地区では、生口橋開通前の救急搬送は市営フェリーに頼っており、フェリーの出航時間に搬送を合わせたり、夜間には小型の船を用意して搬送する必要がありました。

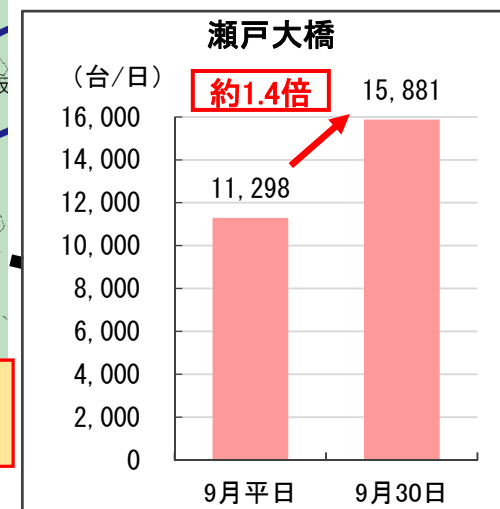
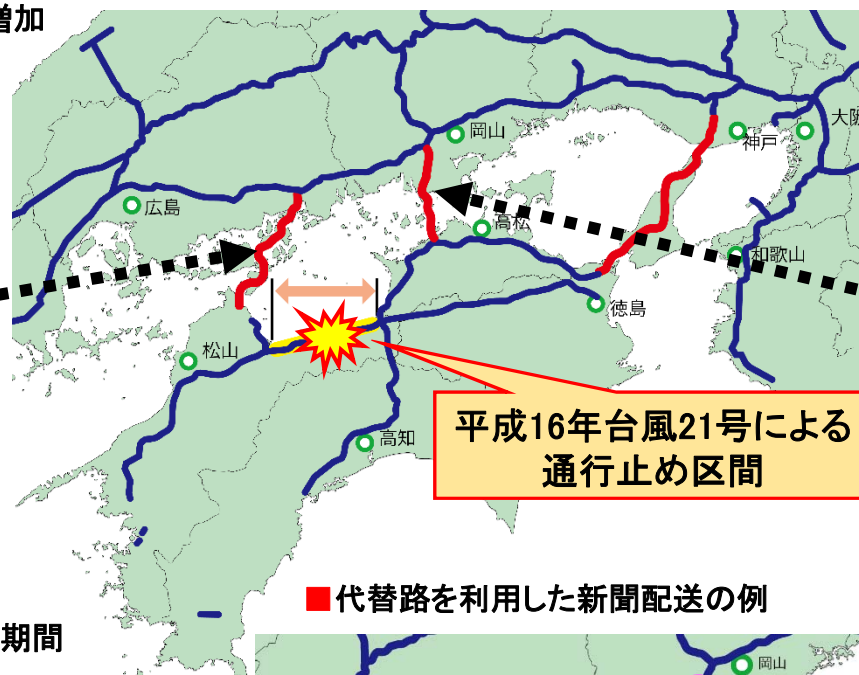
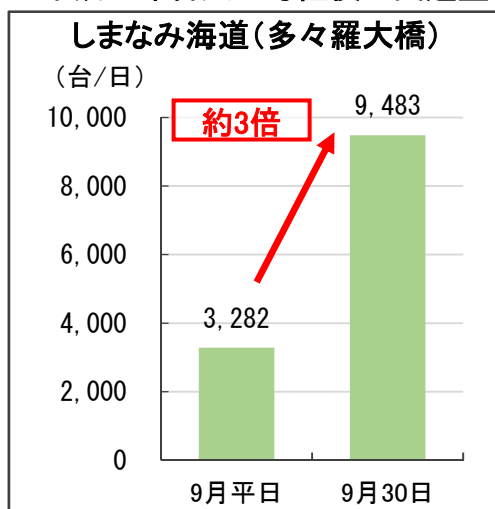
しまなみ海道の開通により、尾道市・福山市内の病院へ終日・即時の搬送が可能になりました。



リダンダンシー確保により社会経済活動を支援

- 平成16年9月29日に四国地方を襲った台風21号により、愛媛県内の国道11号・松山自動車道・JR予讃線で通行止め・運休が発生し、愛媛方面と香川・徳島方面を結ぶ幹線道路・鉄道が、数日間寸断
- その際、しまなみ海道と瀬戸大橋が代替路となり、災害時の社会経済活動の維持に貢献

■平成16年台風21号直後の交通量増加



■平成16年台風21号により通行止め・運休となった区間とその期間

路線	区間	通行止め・運休期間
一般国道11号	新居浜市船木	9/29(水)～10/1(金)
松山自動車道	三島川之江～いよ小松	9/29(水)～10/4(月)
JR予讃線	川之江駅～伊予西条駅	9/29(水)～10/7(木)

■代替路を利用した新聞配送の例



香川県内の印刷工場から、瀬戸大橋・山陽道・しまなみ海道を經由し、愛媛方面の販売店へ配送しました。